

自転車の立場に立った物語的体験と愛着形成 ～映像『自転車の気持ち』作成の試み～

羽鳥 剛史¹・尾形 愛実²

¹正会員 愛媛大学大学院准教授 理工学研究科生産環境工学専攻 (〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番)
E-mail:hatori@cee.ehime-u.ac.jp

²非会員 愛媛大学工学部 環境建設工学科 (〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番)

現在、自転車の放置駐輪が大きな社会問題となっている。この問題に対して、放置自転車の撤去や駐輪場の整備等、様々な対策が講じられているものの、全国各地において放置駐輪問題は未だ深刻な問題であり続けているのが実情である。こうした問題の原因は様々であるが、その1つの原因として、人々の自転車に対する愛着意識が低下している可能性が考えられる。この点を踏まえて、本研究では、自転車の立場に立った物語的な体験に着目し、そうした体験が自転車に対する愛着意識に及ぼす影響について検討することを目的とした。この目的の下、自転車の立場から捉えた出来事を映像化し、その映像の視聴が自転車に対する愛着意識や拡張自己に及ぼす影響について実験的に検討した。

Key Words : Attachment to Bicycle, Problem of Illegal Bicycle Parking, Narrative Experience

1. はじめに

近年、自転車の「放置駐輪」が深刻な社会問題となっている。自転車の放置駐輪は、歩行者の安全で円滑な歩行の妨げになるばかりではなく、地域の景観の質を悪化させるものである。また、放置自転車が原因となって、緊急車両の交通が阻害されることや、視覚障害者や車椅子で移動する人々などの交通弱者に対しても安全な移動を脅かす等、放置駐輪が社会に及ぼす影響は極めて深刻なものである。

このような問題の深刻さを受けて、現在、全国各地の多くの自治体において、放置駐輪の問題が交通行政上の喫緊の課題として位置付けられており、駐輪施設の整備や放置自転車の撤去等、様々な対策が実施されている。しかし、そうした施策が実施されてきたにもかかわらず、放置駐輪行為が後を絶たず、全国各地において放置駐輪問題は未だ深刻な問題で有り続けているのが実情である。それでは、撤去や駐輪場の整備等の方策が実施されているながら、なぜ人々の放置駐輪行為が後を絶たないのであろうか。この問題について、本研究では、人々の自転車に対する愛着意識に着目する。すなわち、人々が自分の所有する自転車に対して愛着を抱いていれば、その自転車を違法に放置する可能性は少ないものと考えられる。なぜなら、自分の自転車を路上に放置するという行為は、

少なくとも駐輪場に適切に駐輪する場合に比べて、自転車が撤去されることや盗まれる危険性が高く、自転車を大切にしている人がそうした危険性のある放置駐輪を行う可能性は少ないものと考えられるためである。この点を踏まえれば、現在、放置駐輪に対する撤去や駐輪場の整備が進められているにも関わらず、放置駐輪が後を絶たない背景には、人々の自転車に対する愛着意識が低下しつつある可能性が考えられるところである。

消費者行動や発達心理学等の研究分野において、人々が他者に対してだけでなく、モノに対しても愛着意識を持つことが知られている¹⁾³⁾。人々は、例えば、家やクルマ、人形やぬいぐるみ等、様々なモノに対して情緒的な結びつきを感じる¹⁾⁴⁾。Belk¹⁾によれば、モノに対する愛着は「自己の拡張 (self extension)」として捉えることが出来る。すなわち、「自己」という感覚は、自分自身の身体だけでなく、物的所有物にまで及び得る。そのため、人々は自分が愛着を持つモノに対して、それが自己の一部であると認識することがある⁵⁾⁶⁾。

それでは、自転車に対する愛着意識はどのように形成されるのであろうか。この点について、本研究では、自転車の立場に立った物語的な体験に着目し、そうした体験が自転車に対する選好や愛着意識に及ぼす影響について検討することを目的とした。この目的の下、自転車の立場から捉えた出来事を映像化し、その映像の視聴が自

表-1 『自転車の気持ち』視聴前後の意識の比較

	視聴前		視聴後		平均値の差	t値
	M	SD	M	SD		
拡張自己	2.28	1.08	2.69	.77	0.41	3.58 **
愛着意識	3.39	.97	3.55	.83	0.16	2.18 *
放置駐輪抑制意図	3.62	1.04	3.87	.92	0.25	1.43

*: $p<.05$ **: $p<.01$

転車に対する愛着意識や拡張自己に及ぼす影響について実験的に検討した。

2. 実験方法

(1) 映画『自転車の気持ち』の作成

2014年11月7日、愛媛県松山市内にて、自転車が路上に放置されてから、近隣の市営駐輪場まで撤去され、その後、自転車の持ち主が引き取りに来るまでの一連の経過を撮影した。小型カメラを自転車に設置し、自転車の立場から捉えた光景を撮影すると共に、もう一台のカメラで自転車全体の遠景を撮影した。その撮影記録を基にして、『自転車の気持ち』と題する約5分間の動画を編集した。

(2) 実験手続き

愛媛大学の学部生43名（男性32名、女性11名）に対して、自転車に対する意識として、1)拡張自己（「今の自転車を自己の一部のように感じる」について「とてもそう思う」から「全然そう思わない」までの4件法）、2)愛着意識（「今の自転車を大切にしたいと思う」「今の自転車をずっと使っていきたいと思う」「今の自転車をスクラップにするのは悲しい」「今の自転車には、愛着がある」「今の自転車が好きだ」「今の自転車が気に入っている」「今の自転車に乗るとリラックスできる」についてそれぞれ「とてもそう思う」から「全然そう思わない」までの5件法）、3)放置駐輪抑制意図（「できるだけ、自転車の放置駐輪を控えよう、と思いますか?」について「とてもそう思う」から「全然そう思わない」までの5件法）について回答してもらった。その上で、上述の動画を視聴してもらい、その後、再度自転車に対する意識について回答してもらい、本動画の視聴前後でこれらの意識がどの程度変化するかを調べた。ここで、愛着意識については、上述の7つの質問項目の加算平均より自転車愛着尺度 ($\alpha=.90$) を構成した。

3. 結果と考察

本動画の視聴前後で自転車に対する意識の平均値を比較した。その結果、表-1に示す通り、自転車に対する拡

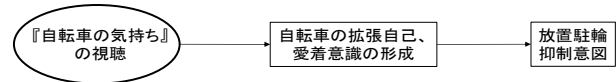


図-1 『自転車の気持ち』視聴が自転車に関する意識に及ぼす影響

張自己と愛着意識について視聴前後で有意な差異が確認された。この結果は、本動画を視聴することによって、自転車を自己の一部と見做す傾向が高まると共に、自転車に対する愛着意識も向上する傾向にあることを示している。一方、放置駐輪抑制意図に関しては、視聴前後で有意な差異は確認されなかった。ただし、自転車に関わる拡張自己及び愛着意識と放置駐輪抑制意図との間には、有意な正の相関（それぞれ $r = 0.35, p = 0.02$; $r = 0.35, p = 0.03$ ）が見られた。この結果より、本動画の視聴が自転車に対する選好意識に及ぼす影響に関して、図-1に示すような関係が成立する可能性が示唆されることである。以上の結果は、自転車の立場に立った物語体験を経ることを通じて、自転車に対する愛着意識が形成される可能性を示している。

参考文献

- 1) Belk, R. W.: Possessions and the extended self. *Journal of Consumer Research*, Vol. 15, No. 2, 139-168, 1988.
- 2) Pierce, J., Kostova, T., and Dirks, K. T.: The state of psychological ownership: Integrating and extending a century of research. *Review of General Psychology*, Vol. 7, 84-107, 2003.
- 3) 羽鳥剛史, 福田大輔, 三木谷智, 藤井聡: モノに関する所有経験の想起が愛着意識に及ぼす影響—自転車に対する愛着意識と放置駐輪問題を対象として—, *科学・技術研究*, Vol. 1, No. 2, pp.107-114, 2012.
- 4) 池内裕美・藤原武弘・土肥伊都子: 拡張自己の非自発的喪失：大地震による大切な所有物の喪失調査結果より. *社会心理学研究*, Vol. 16, No. 1, 27-38, 2000.
- 5) Dittmar, H.: *The Social Psychology of Material Possessions: To have is to be*. St. Martin's Press, 1992.
- 6) Furby, L.: Possession in humans: An exploratory study of its meaning and motivation. *Social Behavior and Personality*, Vol. 6, 49-65, 1978.

(2015.7.31受付)